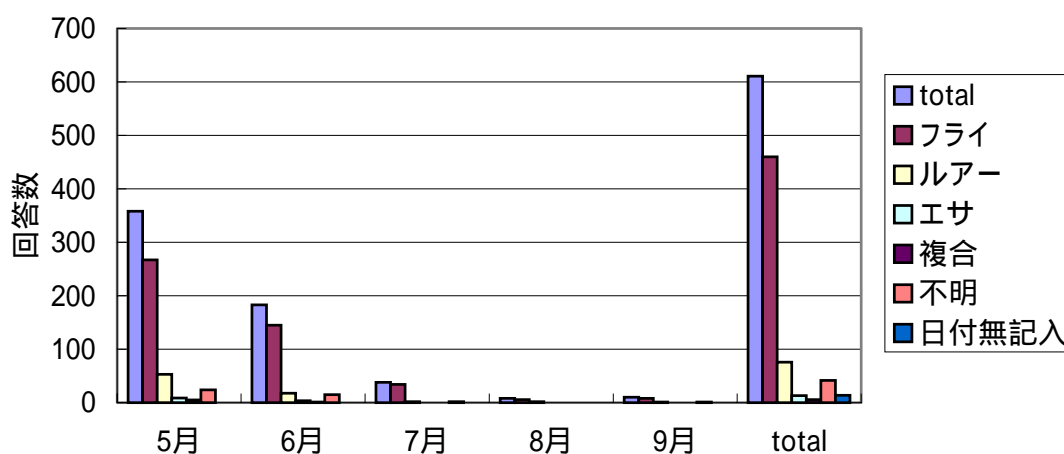


## アンケートによる湯川の釣魚実態調査(2002 年度)結果概要

独立行政法人水産総合研究センター  
養殖研究所日光支所繁殖研究室

釣魚者総数 4,554 名中、アンケート回答数は 611 あり、回答率は 13.42%であった。回答者の釣り方別の割合は、フライ釣りが圧倒的に多く 83.8%、次いでルアー釣りが 13.8%、餌釣りが 2.4%の順であった。

図1 月別回答数



月毎の回答数を図1に示した。5月は回答数が最も多く358あったが、その後は減少の一途をたどり、6月には約半数の183、7月は38、8、9月はそれぞれわずか8、10となった。

図2に月毎のカワマスの釣獲率(1人1時間当たりの平均釣獲尾数)を釣り方別に示した。期間中を通した釣獲率は、フライ釣りが1.06、餌釣りが1.61、ルアー釣りが0.94で、餌釣りが最も高かった。フライ釣りでは8月に1.43と釣獲率が最も高かったが、その他はほぼ1前後で安定していた。餌釣りは5、6月のデータのみだが、両者とも1.5以上であった。ルアー釣りでは5月に1.59と高かったが徐々に減少した。

小滝上流(黄タグ)、小田代橋下(白タグ)、青木橋下(青タグ)及び赤土手下流(赤タグ)に140尾ずつ毎月1回、標識魚を放流した。7月以降のアンケート回答が極めて少なかったので5月放流分のみ結果であるが、それぞれ42尾、44尾、53尾、24尾の釣獲報告があった。標識魚は放流した場所の周辺で多くが釣獲され、放流後、最長で128日目に釣獲報告されたものもあった。同一個体で3回釣獲報告されたものもあり、2回以上釣獲された魚は22個体あった。

今回の調査では、7月以降のアンケート回答数が激減したため、精度の高いデータを得ることができなかった。今後はシーズンを通してコンスタントな回答を得るための方策が必要と考える。

図2 月別釣獲率

